

表1. 脳損傷者の精神的な変化と外出状況（外出目的および付き添い者の必要性）

脳損傷者の病前と比べてみられる精神的な変化（複数回答）		n=48
	n (%)	
記憶に問題が生じた （前向きおよび逆向性の健忘が認められる）	22 (45.8)	
意識障害がある	20 (41.7)	
性格が変わった	15 (31.3)	
感情のコントロールが難しい	14 (29.2)	
遂行機能に問題がある （効率的な行動を行うための時間配分ができない）	11 (22.9)	
その他	5 (10.4)	
外出目的（複数回答）		n=53
	n (%)	
障害者デイセンター	37 (69.8)	
病院	34 (64.2)	
スーパー	22 (41.5)	
親戚・友人の家	12 (22.6)	
散歩	10 (18.9)	
高齢者施設	8 (15.1)	
娯楽施設	5 (9.4)	
その他	7(13.2)	
外出時の付き添い者の必要性		n=53
	n (%)	
外出時に限らず常に介助者が必要	24 (45.3)	
外出時は常に介助者が必要	19 (35.9)	
外出先によっては介助者が必要	6 (11.3)	
介護者なく自分でどこでも外出できる	4 (7.5)	

表2. 主介護者の属性（年齢，脳損傷者との関係）および脳損傷者の外出頻度，
脳損傷者の歩行能力，脳損傷者の精神機能の変化と介護負担感との関係

			人 数	J-ZBI_8	標準 偏差	t 値
主 介 護 者	年齢	50歳未満	9	17.6	7.07	$t(47) = 1.94^\dagger$
		50歳以上	40	12.2	7.66	
	脳損傷者 との関係	保護者	31	11.3	8.34	$t(44) = 1.95^\dagger$
		配偶者	15	15.9	5.30	
脳 損 傷 者	外出頻度	毎日外出群	27	13.2	7.04	$t(44) = 0.17$
		月に数回外出群	19	13.5	8.11	
	歩行能力	歩行可群	27	14.0	7.08	$t(47) = 0.89$
		歩行不可群	22	12.1	8.60	
精 神 機 能 の 変 化	記憶に問題が生じた	記憶に問題がない	22	13.8	7.11	$t(46) = 0.61$
		記憶に問題がない	26	12.4	8.50	
	意識障害がある	意識障害がない	19	14.5	7.88	$t(46) = 1.05$
		意識障害がない	29	12.1	7.80	
	性格の変化がある	性格に変化はない	15	14.3	7.65	$t(46) = 0.71$
		性格に変化はない	33	12.5	7.98	
	感情のコントロールが難しい	感情のコントロールに問題がない	14	16.2	8.40	$t(46) = 1.83^\dagger$
		感情のコントロールに問題がない	34	11.8	7.34	
	遂行機能に問題がある	遂行機能に問題がない	11	13.2	7.56	$t(46) = 0.06$
		遂行機能に問題がない	37	13.0	8.02	

(J-ZBI_8得点の平均値を示している。表では無回答を除いて示している)

†: $p < 0.1$

表3. 外出前・外出時の介護負担

主介護者が負担があると感じる外出前の準備 (自由記述)	
	<i>n</i> =
36	
	<i>n</i> (%)
排泄への不安	9 (25.0)
主介護者にとって問題となる行動	9 (25.0)
荷物が多い	5 (13.9)
外出時のことを考えるだけで不安に思う	2 (5.6)
近所の人目が気になる	1 (2.8)
主介護者が負担があると感じる外出時の介護 (自由記述)	
	<i>n</i> =
33	
	<i>n</i> (%)
主介護者にとって問題となる行動	14 (42.4)
道路環境のバリア	7 (21.2)
周りの人の視線や態度	5 (15.1)
排泄への不安	3 (9.1)
経済的な負担	2 (6.1)
障害者用駐車場の有無	1 (3.0)
天候への不安	1 (3.0)

表4. 外出しやすくするために必要だと思うこと（自由記述） n=26

	<i>n</i> (%)
高次脳機能障害を理解したガイドヘルパーの推進	8 (30.8)
バリアフリー環境の整備	5 (19.2)
高次脳機能障害に関する一般市民の理解	4 (15.3)
介護タクシー利用の簡便化	3 (11.5)
社会資源の充実	3 (11.5)
公共交通機関の職員への教育の徹底	1 (3.8)